



## ツキのあるゴルファー

ひとつのゴルフ試合で1ホールか2ホールのバーディをとるのは、ある程度以上の技術を身につけた人なら、そう難しいことはありません。

・・・しかし、何ホールにもわたって連続してバーディをとるためには、技術だけではダメで、どうしてもツキというものが必要になります。技術面では、特にパッティングの冴(さ)えが不可欠です。連続バーディの記録を立てている人は、強運のもち主であると同時にパッティングの名手であり、心優しいプロゴルファーです。



公式競技での連続バーディ記録は、1974年4月にアルゼンチンのロベルト・デ・ビンセンツォがアルゼンチン共和国杯トーナメントで樹立した9ホール連続。1番から9番まですべてアンダーパー、7番はイーグルで、結局アウトは26。このとき彼はハーフで10アンダーという世界記録も同時に達成しています。

彼は1923年4月14日アルゼンチン・ブエノスアイレス生まれ。世界230以上のトーナメントで優勝し、1967年の全英オープンでも優勝したアルゼンチンの伝説的な英雄です。

ビンセンツォはあるトーナメントで優勝し、賞金の小切手を受け取って帰る準備をしていた。彼が一人で駐車場に向かっていると、一人の女性が彼に話しかけてきた。彼女は彼の勝利をたたえた後、自分の幼い子供は重い病気にかかって死に掛けているが、お金がないために、医者に見せることもできないのだと彼に伝えた。

子を思う親の気持ちがよく伝わる内容の話。ビンセンツォ選手は、彼女の話に心を動かされた。哀れに思ったビンセンツォはペンを取り出すと、さきほど優勝して得た賞金小切手に、その女性が払いだせるように裏書をして

「これがその子のために役立てば良いのだけど…」と、獲得したばかりの賞金の小切手を彼女に握らせた。翌週、彼がカントリークラブで食事しているとテーブルにゴルフ協会の職員がやって来た。

「先週、駐車場にいたやつらが、君がトーナメントで勝った後、そこで若い女性に会っていたと言っていたが・・・」

ビンセンツォは「その通りだ。」とうなずいた。

「実は…」と職員は続けた。「彼女は詐欺師なんだ。病気の赤ん坊なんていないんだ。結婚すらしていないんだよ。君はだまされたんだ。」

「すると、病気で死に掛けている赤ん坊なんていないのか？」

「そのとおりだ。」

協会職員は、残念そうにうなずいた。すると、ビンセンツォは笑いながらこう言った。

「そうか。そいつは今週で一番の良い知らせだ」



**強運のもち主といえるビンセンツォのツキは、彼の心優しさからきているのかもしれない。**